

聴覚障害者のための協働・ビジネススキル向上プログラム・シラバス

区分	講義名	講義概要	時数
〔D E & I 科 目〕	自己肯定感とセルフアドボカシー	聴覚障害者自身のきこえや権利やニーズを改めて再確認し、それを他者に発信することで自己理解だけでなく自己主張の力も養う方法やノウハウについて学ぶ。 さまざまな情報を元に自己決定を行い、周囲に障害に関する理解や受容を繰り返す中で、自己肯定感の向上に繋げていく。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	1.5
	情報保障システム活用演習	企業の中で実施される、きこえる人ときこえない人の間をサポートするさまざまな情報保障手法の概要や各情報保障の特性や欠点、音声認識アプリなどのITツールについて学ぶ。 自身の必要に応じた情報保障を求めるための知識を深め、会議前の準備や情報収集の大切さについても学ぶ。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	1.5
	聴者と協働するマネジメント	企業内のきこえない社員の定着支援実績が豊富な人事担当者、企業で管理職経験のある聴覚障害当事者が講師を担当し、聴者・聴覚障害当事者がよりよい協働のために意識すべきことや必要な配慮について、基本的な考え方や具体的な取り組み例などについて議論・提案する。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	3
	合理的配慮の理解と実践	合理的配慮とは障害のある人が他の人と平等に社会参加できるように、個々の状況に合わせて行われる調整の事である。意思表示や建設的対話から合理的配慮が決定されるプロセスを理解し、どのような困りごとがあっても、どのように環境が変化すれば解決するのか意見を出し合い、よりよい環境を実現できる配慮について考える。 これまでの数多くの聴覚に障害のある社会人の支援に関する実績から、カリキュラム編成に関わっている。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	1.5
	セカンドキャリアプランニング	就労して10年以上経過しさらに40代・50代と年齢を重ねていくうちに出てくる将来の不安や悩みに対処できるよう、将来に備えるための必要なスキル、必要な資産管理などについて幅広く学ぶ。キャリアの軸の考え方や障害者年金制度などを理解し、自身のライフキャリアについて考える力を養う。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	1.5
	寄り添いコミュニケーション	就労時の自身と周囲のコミュニケーション方法を見直し、よりよい関係構築のために必要なスキルはなにかを考え、相手に寄り添った円滑なコミュニケーション方法を習得する。実際のコミュニケーションの成立方法について共有することに加え、傾聴力や伝えるスキルの向上を目指す。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	3
	聴者と協働グループワーク	聴者と協働するマネジメントの内容に続けて、聴覚障害者と聴者が協働するためのポイントを企業人事担当者の助言を受けながら、さまざまな実例や情報交換について、受講生を交えてグループワーク(ディスカッション)形式で学ぶ。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	3
〔ビ ジ ネ ス ス キ ル 科 目〕	社会人としてのマインドセット	聴覚障害者の就労移行支援、就労定着支援の豊富な経験を活かし、聴覚に障害のある社会人が、ホウレンソウなどの基礎的なビジネスマナーを初めとして、聴覚障害者と聴者との異なる社会的習慣についても理解し、社会人として必要不可欠な意識付けについて学ぶ。 これまでの数多くの聴覚に障害のある社会人の支援に関する実績から、カリキュラム編成に関わっている。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	3
	ビジネスメール・文書の書き方	ビジネスで使用される文章は多岐に渡る。企画書やメール文章、チャットの文章など、さまざまなビジネスシーンに必要な文章について、文法構造として留意するポイントと、相手に伝わりやすい文章などについて、具体的な例を参考に学ぶ。 双方向：オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	3
	ストレス対処法	ストレスについて基本的な知識を学び、ストレスとうまく付き合っていくために大切なレジリエンスのスキルを磨く。ストレス管理を行うために効果的なスキルについて、具体的な対処法を学ぶ。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	3

〔ヒジネススキル科目〕	感情コントロール	自身の無意識な行動や考え方を見つめ直すセルフモニタリングを行い、自身の課題や欠点の解決策を考える。加えて、気持ちを前向きに持っていくコントロールについて学び、その実践を繰り返すことで、課題解決力やポジティブさを身につけていき、メタ認知能力を鍛える。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	3
	タスク管理	働くうえで不可欠な仕事(タスク)の処理方法について、基本的な知識を学ぶ。自身で課題に感じる点を書き出し、タスク管理の全体像を把握し、現状を見極めた上でスケジュールの立て方などを身に付ける。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	3
	自分を売り込むプレゼン強化	自分自身のスキルを正確に他者に伝えるプレゼンテーション手法について学ぶ。セルフアドボカシーの講義を参考に、自身の強みや特性を把握し、周囲への理解を求めるための効果的な売り込み方法やプレゼン方法について演習を通して学ぶ。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	3
	ビジネスマネジメント	マネジャーとして必要なスキルを学ぶことで、マネジメント能力の向上を図る。ビジネスマネジャー検定の内容を元に、コミュニケーション方法や人事考課、チームマネジメントのために必要なスキルや管理職の思考方法について学ぶ。 双方向：オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	6
	傾聴と自己主張のマルチタスク	聴覚障害者が聴者とコミュニケーションする際、確実に情報を受け取るだけでなく、相手に寄り添った傾聴を行う方法について学ぶ。加えて、瞬時に情報を把握しそこから自身の意見を発信できるような洞察力や自己主張のスキルについて、会議場面などを想定して複数の情報処理を行う手法を学ぶ。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	6
	個を尊重するチームビルディング	聴覚障害者が、自身の障害だけでなく、一緒に働く人の特性・適性なども理解し、お互いの能力をより発揮できるチームビルディングについて学ぶ。会議場面の準備方法や、会議中の進行方法など、具体的な事例を交えて、参加者同士のディスカッションを通して学ぶ。 これまでの数多くの聴覚に障害のある社会人の支援に関する実績から、カリキュラム編成に関わっている。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	3
	日常的に使えるデザイン思考	課題解決手法のひとつであるデザイン思考について学ぶ。共感・定義・発想・プロトタイプ・テストというステップで行うデザイン思考を日常的に行えるよう、演習を通じて学ぶ。 問題発見・原因追求・解決提案と実施などの課題解決の思考力を身に付ける。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	3
〔DX専門科目〕	デジタル時代のリテラシー	企業で必要とされるDXについて理解し、SNSなどの情報が氾濫する現代において、正しい情報を受け取る能力を培う。今後企業などでの活用が拡大していく、生成AIなどの活用法や活用上の留意点などについて学び、DX時代のリテラシーを身につける。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保するとともに、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	3
	Excel実践力	表計算ソフトであるExcelの基本を理解し、効率的に実務処理を実施するための手法について学ぶ。身近なデータを活用し、VBAやRPAなどの機能について学び、業務効率を向上させるスキルについて、実践的に学ぶ。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保しつつ、実践する。加えて、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	3
	データサイエンス	膨大なデータが溢れている現代において、データサイエンスの考え方を理解し、データの理解や捉え方について学ぶ。授業では、実践的なデータの処理を通して、データドリブンな思考方法や説得力のあるプレゼンに必要な要素などを習得する。 オンラインでリアルタイムに講義を実施し、手話通訳や文字通訳のサポートを利用し、双方向のコミュニケーションを確保しつつ、実践する。加えて、手話・文字・音声など受講生のさまざまなコミュニケーションモードに配慮したグループディスカッションを行う。	3

※ 具体的な開催日時は決定次第、筑波技術大学聴覚障害者のためのキャリアサポートセンター事業 <https://tsukutech-social.net/site/> に掲載いたします。